# 幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　４６号
令和６年　１月　１日

## 幸若忘年会開催
## 千葉　亮氏　幸若〝新説〟

さる一二月二日（金）午後四時から、会員一五名の参加を得て、朝寿殿和室において、忘年会を開催しました。今回は、郷土作家の千葉亮氏をお招きして、「幸若」に関する話題提供をお願いしました。

学術的検証を経たものではなく、作家としての想像力に基づくものであるとの前提での千葉氏の説明要旨は、次のようである。

①桃井直詮（幸若）の祖父である桃井直常は、南北朝時代各地を転戦、一三七一年飛騨国から撤兵し、以後消息不明であるが、隠棲・病死・自害・討死説などが、富山県史料などに伝わる。

②新田義貞の従者であった桃井尚常（直常の末弟である直弘の子）は、義貞の首を善昌寺（群馬県桐生市）住職に託し、近くの石の上で自害した。桃井の腹切り石と呼ばれる。

③法華宗本門流の大本山・京都本能寺の現在の貫主は敦賀市本勝寺より晋山した桃井日英氏である。本門流の開祖・日隆上人は直常の後裔とも伝えられる。

④敦賀市本勝寺は法華宗の寺院で、「水戸天狗党烈士幽虚の地」の石碑がある。現在のご住職は桃井泰人氏（前出日英氏子息）である。敦賀のまちおこし団体「角鹿会」を主宰。

⑤前二寺のご住職は、いずれも越中国を先祖とするが、越前幸若とは関係がないとのご意見である。

⑥新田義貞、幸若舞、織田信長、本能寺、敦賀幸若、本勝寺……作家としては歴史の因縁が感じられる。

**千葉　亮　氏**

昭和三二年越前市生まれ。ライター・編集プランナーとして活躍、県立恐竜博物館の映像企画や敦賀タウン情報誌などの制作に携わる。平成二七年「小説白山平泉寺・白の聖都」、令和五年「ばんけっさんの竜と子どもたち」を出版。旧宮崎地区で土蔵ギャラリー「土環舎とわや」主宰。令和四年福井新聞連載エッセー「時の風」執筆。

# 幸若歴史愛好会開催　11月24日

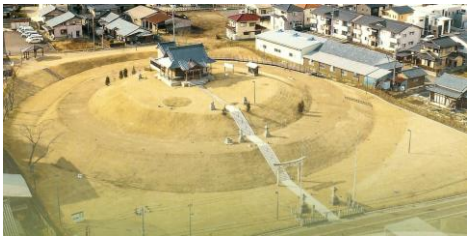
さる一一月二四日、会員一三名の参加を得て、幸若歴史愛好会の一一月例会が、町生涯学習センターで開催されました。当初の予定では、朝日山古墳群の現地調査を実施することでしたが、あいにくの雨模様のため、前回に引き続き同古墳群や鯖江・兜山古墳等の講義が行われました。

青木講師の説明要旨は次のとおりである。

①兜山古墳は五世紀に築造された基底径約七〇㍍に及ぶ円墳で北陸最大級である。葬られた人物は、丹南地域を束ねた人物と想定される。昭和五二年国指定史跡となった。

②市街地内にありながら、これまで盗掘や破壊を免れたのは、墳丘上に八幡神社が鎮座していたことが幸いだったと考えれる。

③この八幡神社は旧北陸道の整備にあたって障害となったため、当時から小高い地形を有していた聖なる空間である墳丘上に遷座した。



福鉄神明駅近くの兜山古墳公園

④鯖江市は、令和五年四月「史跡公園」として整備した。

⑤当公園は神社と古墳が「共存」する全国でもユニークな空間となった。整備後も古墳上には神社の左義長空間も用意されておいて、地域コミュニティの中心である。

## みやま市幸若舞保存会
# デジタル博物館制作への協力

福岡県みやま市（大江）の幸若舞保存会では、幸若舞をさらに全国ＰＲするため、幸若舞に関するデジタル博物館の制作を企画し、その展示内容などについて協力依頼がありました。

大頭流の資料ばかりでなく、発祥の越前幸若舞についても紹介したいということです。このため、幸若舞の発祥経緯資料、越前町（朝日町）観光などの概要、幸若舞里づくり会の活動状況、現代幸若舞などについて、町教育委員会の協力を得て、みやま市へすでに送付しました。

みやま市の保存会では、みやま市と越前町の資料を編集して、全体としてまとまった展示内容とします。**その内容説明と意見交換会がこの１月１２日（金）午後６時からオンラインで町生涯学習センターで開催されます。ご都合のつく会員の積極的な参加をお願いいたします。**

このときの状況を収録したウェビナー（番組）が１月１５日から３１日まで全国配信されることになっています。また本年は１月２０日のみやま市保存会の天満神社への奉納舞がライブ配信される予定です。

## 当面の主な予定

１月１２日（金）　みやま市デジタル博物館意見交換会
１月２６日（金）　幸若歴史愛好会
みやま市の幸若舞奉納視察研修は本年は中止します。

商工会館・区民会館解体

# 郡上青山藩葉菊会との交流会

さる一一月二三日、郡上青山藩葉菊会からの招待を受け、児玉・橋本・打波・辻の四名の会員が岐阜県・郡上八幡を訪れました。

当日は、同地の日蓮宗・大乗寺において、「青山家伝来架鷹図屏風御披露目会」とその「記念お茶会」が開催され参加しました。

まず、「架鷹図」の説明では、江戸時代の鷹狩は武家の趣味・武術の一環であるとともに、徳川将軍家の特任事項であり、将軍家と大名家との交際品として、献上・下賜された。そして、鷹にもオオタカ・ハイタカ・ハヤブサなどのランクがあり、将軍家は大名家との関係や家格などに応じて、鷹を下賜したことから大名家のステータスを表すことにもなり江戸時代の政治秩序形成にも組み込まれていた。

架鷹図屏風説明

また獲物にはツルやカモ、ガンなどがあったが、ツルが最も捕獲困難とされ、饗宴や贈答でも珍重された。将軍が朝廷に進献した記録も残る。さらに鷹を繋ぐ足緒の朱や緑などの柄はその鷹の狩猟実績や能力を表すものであった。

お披露目会の後、青山家令夫人の主催するお茶会に臨みました。厳かにも華やかなお茶会で当方の無作法が気がかりでした。

さらに、同地ホテルでの昼食会に招かれ、葉菊会や当会の活動状況について情報・意見交換を行いました。幸若舞の復興の困難を感じられていたようでした。

その後、大正年間に大火災にあったものの、奥美濃の小京都とも呼ばれる市街地を散策案内していただきました。天候にも恵まれて、たくさんの若者が伝統を感じながら、街歩きを楽しんでいました。

郡上八幡城の紅葉をバックに

郡上市街地

・越前松平家をおいても、将軍家との間で、ハイタカやオオタカさらには捕獲したツルなどの献上、拝領が行われている。

・数年まえに、福井市内の街路樹に群れるムクドリを追い払うためタカの放鳥が行われた。

郡上青山藩葉菊会の詳細に関しては、当かわら版前々号（第４４号）をご覧ください。

# 仲哀・応神天皇とゆかりの歴史遺産

## ―経ヶ塚古墳・八坂神社・劔神社―

青木講師新春寄稿

仲哀天皇と神功皇后との皇子（誉田別王）である応神天皇は朝鮮半島の百済王と親密な関係を築いた。その結果、種々の技術をもった多くの人々が渡来したと伝わる。越前町には仲哀・応神両天皇とゆかりの深い歴史遺産がある。

**一つ目は経ヶ塚古墳**である。内郡の山上に立地し、約一六〇〇年前に築かれた前方後円墳である。墳長七二メートルでこの時代としては丹南盆地最大規模を誇る。この古墳が築かれた五世紀初頭は応仁天皇の治世であった。被葬者は天王川流域を支配した地域首長で、盆地内では最も勢威のあった首長であった。今で言えば県知事に次ぐ市長クラスといえる。

**二つ目は牛頭天王社**である。天王区に存する八坂神社のことであり、かって応神天王社と称された。ぞの神宮寺は応神寺と呼ばれている。八坂神社文書では、その創建は応神天皇と伝える。牛頭天王は疫病・病害虫・邪気などを払い流し去る神として、今日も信仰されている。この信仰はインドから中国・朝鮮半島を経由して日本に伝播したものであるが、天王に存する牛頭天王社は日本最古級のものであると考えられる。（『会誌』二九号、鯖江郷土史懇談会）

さらに『祇園大明神事』によれば、「牛頭天王」は北海（日本海）を廻国して北陸にいた」とある。この「北陸」とは北陸地方における牛頭天王社の中でも最古級である牛頭天王社が存する当地を指すと考えれる。すなわち、牛頭天王信仰は当地より京都八坂神社へ伝播したと言えるのであり、通説に言う疫隈神社（『備後風土記』逸文七一三年頃）からではないのである。

**三つ目は劔神社**である。越前二の宮である劔神社は誉田別命に対して謀反を起こした異母兄（忍熊王）を祀る。その神宮寺である劔御子寺は日本最古の神宮寺（『会誌』一八号、鯖江郷土史懇談会）で、祭神は天利劔尊・忍熊王・誉田別王・劔彦尊と変遷するが、ここにも「誉田別王」の名が登場し、応神天皇との関わりがうかがわれる。

以上のように、県内では仲哀・応神両天皇とゆかりの深い地は越前町以外では丸岡町と敦賀市のみである。新しい年を迎え、八坂神社・劔神社に参拝し、今年も健康で頑張れることを祈念したい。

（文責　元朝倉氏遺跡資料館館長　青木豊昭）

朝日小学校出前授業
令和5年12月20日

**幸若舞団員**
**大募集！**

朝日地区総合文化祭
11月4日